

福井県嶺北地方における最近の地震活動

○岡本 拓夫・平野 憲雄・竹内 文朗・西上 鈴也

1.はじめに

福井県嶺北地方では、最近地震活動の活発化が指摘されており、有感地震の回数も多く報告されている。特に嶺北地方の北部、奥越の地域で顕著な活動が認められる。嶺北地方及びその周辺には顕著な活断層の存在が指摘されており、近年の地震活動との関係を研究することが緊急の課題となっている。

本研究は、M3 を越える地震のメカニズムと付随する地震活動の並び、既存の地震活動、地表の活断層の分布を比較することで、地震活動の活発化の原因を考察し、現在の地震活動の特徴を明らかにすることを目的としている。

結果として、現在の活動は既存の活断層に沿わず、少しあみ出した所に、地表の活断層とは異なる方向に並びが認められる事が分かった。

また、若狭湾の地震活動に注目すると、三国に沖から丹後半島に向けて帯状の様な並びが認められた。

2.震源情報

用いた震源情報は、北陸観測所で研究用に作成されている震源情報ファイルと、ルーチンとして取得してきた統合ファイル（北陸観測所と上宝観測所の統合ファイル）である。メカニズムや活動の並びについては研究用ファイルを、地震活動の評価については統合ファイルを用いた。

3.方法

メカニズムは、前田の方法を元にした片尾（1999）を用いて求めた。地震活動の検測にはWin-systemを利用し、出力にはHyperDPRIを用いた。また、震源の再決定にはMJHD (Hurukawa and Imoto, 1992)を利用した。

4.現在の地震活動

昨年の講演（2003）では、2000年よりの地震活動の増加を示した。その中で特に、若狭湾内の地震活動、嶺北北部と奥越の地震活動が顕著

Seismicity Map around the Fukui pref., 76-08

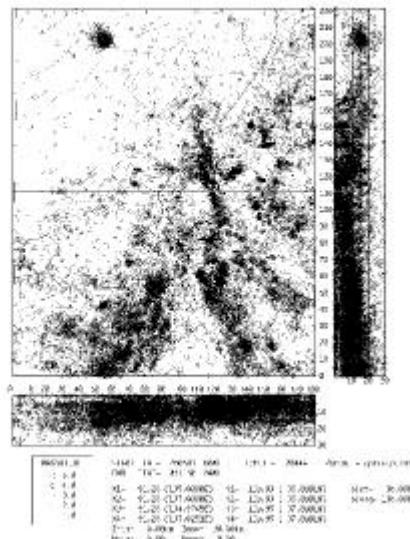


Fig. Seismicity Map for 1976-2003.

に認められるようになってきた。Fig.に最近までの福井県周辺の震央マップを示す。若狭湾の帯状分布、福井地震断層周辺の活動域、奥越の活動域がはっきり認められる。

5.顕著な活動

講演では、若狭湾、嶺北北部及び加賀、奥越の顕著な活動について報告する予定である。福井地方気象台の報告（2003）でも、これらの活動は指摘されており、有感の回数の増加も併せて報告されている。それぞれの地域でM3クラスの地震の発生に伴い、地震活動の並びが認められ、メカニズムとの比較を行った。P軸はほぼ同じ方向に認められた。メカニズムと地震の並びから推定され震源断層の走向は、近隣の地表の活断層のトレースとは合わないものが多く認められた。若狭湾の帯状分布は、北西 南東方向の短い地震の並びが帯状に三国沖から丹後半島まで連なっているように認められた。

6.謝辞

福井地方気象台の方に、感謝致します。